

新霊合祀・慰霊祭報告

11月9日（日）、宮崎大学教育文化学部附属小学校に於いて、平成26年度「新霊合祀・慰霊祭」を行いました。今年は、遺族29名、来賓5名、会員101名（男子64名、女子37名）、役員35名、総計170名の参加でした。

本年度の新霊合祀者は次の先生方です。（敬称略）

	卒業年	御芳名	住所		卒業年	御芳名	住所
1	3	財部 ミキ	都城市	29	20	土肥 道廣	延岡市
2	8	大平 輝枝	宮崎市	30		関 孝	延岡市
3		枝本 厚信	都城市	31		轟木 次男	三股町
4	10	萱島 伸	高鍋町	32		伊藤三重子	川口市
5		中山 和子	宮崎市	33		菊池 修	東京都
6		永崎 チヤ	えびの市	34		出水 進	宮崎市
7		岩佐 政雄	高鍋町	35		22	神戸恭三郎
8	11	別府 鉄朗	小林市	36	内山 辰美		都城市
9	13	財部 通治	都城市	37	瀬戸山治義		高鍋町
10		牧野田 弘	高鍋町	38	日高 博		宮崎市
11		川口 正治	西都市	39	23	山田 哲雄	あきる野市
12	14	三島 淑子	日南市	40		日野 雅雄	国分寺市
13	16	内田 聡	高鍋町	41		関屋 昭二	日南市
14	17	長倉ヒデ子	日南市	42		河野 秀雄	宮崎市
15		那須 林	延岡市	43		小田口 薫	宮崎市
16	18	阪本 六雄	宮崎市	44		井上 宗幸	宮崎市
17	19	荒武 峯子	宮崎市	45	24	高岩 宗昭	小林市
18		佐伯 政美	宮崎市	46		隈元 幸美	宮崎市
19		星居 ミヤ	高鍋町	47		横山 靖子	宮崎市
20		蛭原 善行	日南市	48		白方美恵子	日南市
21		門松 一行	国富町	49		長嶺 護	宮崎市
22		日高 次男	宮崎市	50		村田 則穂	宮崎市
23		竹井 睦雄	宮崎市	51		25	上村 正夫
24	那須 五男	さいたま市	52	温水 トミ	宮崎市		
25	福田 金晴	熊本市	53	田中 統子	札幌市		
26	20	得能 哲夫	都城市	54	26	飯干 康子	宮崎市
27		岡野 康政	都城市	55		有馬 哲司	都城市
28		野海 和子	都城市	56		小野 重幸	宮崎市

	卒業年	御芳名	住 所		卒業年	御芳名	住 所
57	2 6	日 向 熙	宮崎市	73	3 3	白 石 正 教	宮崎市
58		玉 田 健二	日南市	74		河 野 和 順	宮崎市
59		隈 本 毅	延岡市	75	3 4	西 岡 三 郎	宮崎市
60		山 根 繁一	延岡市	76		黒 熊 松 郎	宮崎市
61		吉 田 清 邦	都城市	77	3 5	河 野 直	大分市
62	2 8	久 保 田 良 一	宮崎市	78		衛 藤 嘉 一	延岡市
63		岡 元 五 月 男	宮崎市	79		新 穂 昇	都城市
64		松 根 定 良	日南市	80	3 6	南 忠 治	宮崎市
65	2 9	長 友 幸 雄	西都市	81	3 7	木 島 靖 郎	延岡市
66		稻 倉 宗 知	都農町	82	3 9	藤 原 悦 子	都城市
67	3 0	財 部 利 夫	宮崎市	83		水 淵 昶 太 郎	日南市
68	3 1	長 坂 恒 雄	延岡市	84		中 山 昌 彦	国富町
69	3 2	佐 藤 高 元	宮崎市	85	4 1	野 上 敏 治	延岡市
70		永 富 靖 規	宮崎市	86	4 3	関 谷 修 史	小林市
71		二 川 幸 示	都城市	87	4 6	園 田 健 一	延岡市
72		山 内 公 朗	宮崎市	88	4 9	武 本 博	宮崎市

○ 前々日準備

前々日の7日（金）、15時から会場設営を行いました。附属小・中の校長・教頭先生をはじめとする先生方や附属中の生徒に御協力していただきました。心から感謝申し上げます。



1 開式のことば

○ 石塚 敦子 副会長

ただいまから平成26年度
新霊合祀慰霊祭を執り行います。



2 祭主合祀新霊新奏

- 前田 稔 副会長（会長代行）
 - ・ 会長に代わって、前田副会長が合祀される先生方のお名前をお一人お一人読み上げました。



3 黙禱



4 送魂追悼の調べ

- 森 浩司氏（30年卒）
 - ・ 「千の風になって」の二胡演奏



5 会長慰霊の詞

○ 前田 稔副会長（会長代行）



菊薫る、今日のこの日、ご遺族をはじめ、ご来賓ならびに多くの木犀会会員参列のもと、母校宮崎大学教育文化学部附属小学校の体育館を斎場として、平成26年度、木犀会招魂の碑に、合祀されました御霊に対し、謹んで慰霊の言葉を申し上げます。

母校の跡地に安置されております招魂の碑は、そばにそびえる金木犀の木から見守られ、毎年輝くばかりの金色の花や、そのふくよかな香りとともにいつも優しく祀られております。

そしてまた、あの太平洋戦争の宮崎空襲で、一瞬にしてその尊い命を失った師範学校附属小学校のいとし子12名が、今年もまた、正門の横に安置されています供養の碑の前に並び、静かに御霊を迎えてくれました。御霊におかれましては、今一度、そのいとし子一人一人を優しく抱きしめ、温めてやってください。

ここに合祀されました平成26年度の御霊は、先ほどご芳名を申し上げましたとおり、88名となりました。私たち会員は、お一人お一人のご芳名に接するごとに、看護に身も心も捧げられたご遺族の限りない寂しさや悲しさを思い、その心情に心揺さぶられながら、ご生前の優しいお姿や自らの熱情を教育一筋に打ち込まれた、ひたむきな生きざまを思い起こし、折に触れて頂いた厳しくも身に染みる励ましのお言葉など、様々な思い出が頭をよぎり、限りない哀惜の情が万感胸に迫っているところであります。

この斎場は御霊を慰霊するにあたって、会場の設営は私たち会員とともに、大学附属小・中学校のご厚意により、附属学校職員・児童・生徒の献身的なご協力によってなされました。これは今も変わらない母校愛と母校に学んだ者同士の強い絆の成せる証しであると確信しております。

母校は、遠く学園木花台に移転して20数年になりますが、その際、旧教育学部にありました金木犀の木を株分けし、記念樹として教育文化学部の周りに植栽したと聞いております。その若木は緑鮮やかに大きく成長し、今や旧跡地の木犀に負けず劣らぬ香りを漂わせており、次代を担う気鋭に満ちた学生諸君の行き交う姿を、温かく見守り、励ましております。このように、たとえ母校が遠く離れましても、営々と築かれた母校との絆は木犀の木を通して脈々と引き継がれています。

現在教育文化学部では、木犀会との百有余年の伝統を継承しながら今

日の激しく変化する社会の要請に対応した新しい大学改革を推進し、「地域に根差した大学づくり」をモットーに新しい学部づくりに邁進されています。中でも宮崎大学の4学部が連合した「宮崎大学同窓会連合会」が結成され、各学部同窓会の連携が成され、今年はこの連合会も大きな歴史的節目を迎えます。すなわち各学部の創立記念の総計が330年となることを記念して「宮崎大学創立330記念式典」が本年度11月8日（昨日）に挙行されたばかりで、その記念事業として、学部図書館の北側に、多目的ホールや学生支援部及び売店を備えた「創立330年記念交流会館」が落成しました。この交流会館を見たとき、これからの学生諸君のキャリア支援と交流の場になり、母校の歴史に明るい未来が拓かれるものと確信いたしました。私たち同窓会も、学部との連携を一層密にして母校の発展に寄与すべく会員一体となって協力・支援することを誓い合っているところであります。このような取り組みは、また、御霊から私たちに託された願いでもあると信じております。先人の言葉に「故人を崇めるには、故人の飽くなき努力の足跡を尊び、学ぶことによって、崇めなければならない。」とあります。私たちもこの言葉を胸に刻み、御霊の積み重ねられた輝かしい功績を尋ね、学び、そして発展させ、すべての御霊のご期待に沿えるよう日々精励することを御霊の前にお誓いいたします。どうぞ、天界より見守っていただき、よろしくお導きください。

最後に、すでに招魂の碑に収められておわします御霊におかれましては、ここに合祀されます新霊を、温かくお迎え頂くと共に、母校のゆるぎない発展と同窓会木犀会の一層の充実を見守ってくださいますよう心からお願い申し上げます。

それでは、改めて、御霊のおん安かれを祈りながら、ご遺族の皆様のご健勝とご多幸を心から祈念し、慰霊の詞といたします。

平成26年11月9日

木犀会 会長 緒方明夫（代読、副会長 前田 稔）

6 遺族代表追悼の詞

○ 竹井 さかえ様（故竹井睦雄夫人）

この場に立たせて頂きましたこと、大変おこがましきも、又光栄に思います。

主人が公私ともにお世話になった方々と申し合わせたように手を繋ぎ千の風になったこの年に、ご挨拶させて頂くこと主人も心配しながら聞き耳を立てていることでしょう。



平和賞のマララさんが命をかけて（One teacher One book）と叫びながら教育を受けたいと訴えたあのすばらしいスピーチを聴いて、パキスタンに比べて日本は天国だと思いました。義務教育等、夢の又夢の国でしょうか。

主人は、宮崎の教育者として自分より立派な社会人を多く出すことができて、本当に幸せなことでした。主人の晩年は、木犀会の将来を大変案じながらも、木犀会が生きがいでもあったようです。

主人の外出のたびに、2，3才の孫に「木犀会に行くのね」と送り出されていました。もっと生きて欲しい人でした。もっと生きたかったと思います。（木犀会の花）

「僕にもスピーチをさせてくれ」という声が聞こえてきましたので、私の言葉は足りませんでした。終わらせて頂きます。

御出席下さった方々、今日の式典の準備万端整えて下さった方々本当にありがとうございました。皆様、ご機嫌よう、失礼いたします。

竹井 さかえ

2014年 11月 9日

7 献花

- (1) 会長
- (2) 遺族
- (3) 宮崎大学教育文化学部長
- (4) 来賓
 - 宮崎大学副学長
 - 宮崎教職大学院教育学研究科長
 - 宮崎大学教育文化学部事務課長
 - 木犀会顧問（前会長）
 - 地区木犀会会長
 - 地区評議員
- (5) 木犀会会員代表



8 招魂祭の歌

- 指揮・釘田 栄子氏（42年卒）

9 閉式のことば

- 石塚 敦子副会長



【 偲ぶ会 】

慰霊祭後に「偲ぶ会」が開かれました。

